

# 教育格差にココロで向き合う無料塾 「ステップアップ塾」 活動中間報告

NPO法人 維新隊ユネスコクラブ

発表者 濱松 敏廣

発表日 2018年3月2日

## 運営団体紹介と開塾の経緯

### 運営団体：NPO法人 維新隊ユネスコクラブ（10期目）

2008年8月 団体設立

2012年1月 東日本大震災の被災地支援活動の評価を受け（公社）日本ユネスコ協会連盟に加盟

2014年4月 ステップアップ塾開始

※当団体は（公社）日本ユネスコ協会連盟より活動資金の補助は受けていません。



### 運営団体理事長 ステップアップ塾長 濱松敏廣



- 1976年生まれ、東京都板橋区出身
- 明治大学附属中野高校、明治大学経営学部卒業
- 家族は妻と息子（2歳）
- 幼少期より父親からDVを受けて育つ。酒乱の父に家族（母、兄、姉）がおびえ、安心して食事ができない家庭であった。
- 被災地支援活動を通じ、震災遺児・孤児が希望する進路を諦めているという事例を多く聞く中、家庭内の困難によって進学をあきらめるケースは都心でも身近に存在することを知る。  
→自らの生き立ちと照らし合わせ、今必要とされていることは何か？を考える

→ステップアップ塾の誕生



# —食事つき個別指導型無料学習塾—

## 【支援を必要とする家庭の主な理由】

- ①有料の塾に通えない  
→低所得の問題
- ②生活が苦しく栄養不足  
→低所得の問題
- ③学校の勉強についていけない  
→いじめによる不登校、学級崩壊など  
学校環境の問題
- ④ひとり親の外国人世帯  
→日本の進学事情への理解不足、家庭  
内教育が困難という問題
- ⑤家族ごと孤立状態  
→相談相手が不在
- ⑥家で勉強できる環境にない  
→家庭不和の問題



## 【受益者】

経済的・社会的困難な状況にある家庭の小中学生



## 【取り組み】

### ①学習指導

大学生が中心のボランティア講師による学習指導 ➡ 学力の向上

### ②食事の提供

授業後に食事を提供 ➡ 心身の健康、食事マナーの向上

### ③課外授業

清掃活動やハイキングなどの実施

➡ 自発性、協調性、社会性の向上とコミュニケーション力の向上

### ④ココロメンテナンス

SSTを取り入れたワークショップの実践や専門家による個別のカウンセリング

➡ 自己効力感の向上、精神不安や親子関係の改善

## 【目的】

子どもたちが家庭環境に関係なく希望する進路を選ぶことができる（＝教育格差から脱却できる）力を育む





## 2017年度まで（1～4期）の塾生とその家庭

- ◆生徒数：153名  
（2014年度22名／2015年度44名／2016年度42名／2017年度45名）
  - ◆小学生：74名 / 中学生：79名
  - ◆母子家庭の子ども数：138名
  - ◆父子家庭の子ども数：6名
  - ◆両親がいる家庭の子ども数：9名
  - ◆相対的貧困（平均年収の1/4未満）の世帯の子ども数：96名（約63%）
  - ◆平均年収の1/4以上半分未満の世帯の子ども数：39名（約25%）
  - ◆平均年収の半分以上の世帯の子ども数：18名
- ※2014～2016年度は、平均世帯年収を488万円、2017年度は541万円として計算していました。
- ◆親が外国人である世帯の子ども：10名
  - ◆東日本大震災被災世帯の子ども：2名



約88%が  
平均年収の  
半分以下の収入で  
暮らしています

## 2017年度まで（1～4期）の塾生の活躍実績

- ◆2016年度の中学3年生の進路  
都立高校進学予定：4名 私立高校進学予定：1名  
※2017年度については私立高校合格者1名以外は発表待ちです（3/2現在）。
- ◆その他  
数検準2級（小6）合格者、英検3級（中2）、4級（小5）合格者



## MCF様より助成を受けて

今回の助成を受けることにより、教室の賃借料とボランティア交通費に充てることができています。そのことで、スタッフワークの効率化・充実化を図ることができました。

### 【2017年9月～1月で達成できていること】

#### ①運営面の効率化・充実化への注力

→プロボノとの協働を図ることが可能になり、以下のことが実現しました。

- 1) 塾生やボランティア講師の管理のためにSalesforceを導入
- 2) 出欠管理をバーコードで登録でき、保護者に連絡ができるシステムを導入
- 3) 塾生の学力に合わせて調整ができる英単語テストの自動生成システムを構築・導入

#### ②定着するボランティア講師が増加

→定期的に参加する学生講師が増加し、以下のことが実現しました。

- 1) 講師不足が解消され、受験生や発達障がいのある塾生のマンツーマンでの指導が可能に
- 2) 次年度の学生講師サークルの運営体制を学生が主体的に考え、引き継ぎを実施  
(ボランティアスタッフによる自主的なマニュアル作成と人材育成)

#### ③広報資料・HPの充実化

→オンライン寄付への導線となるLPの作成や説明会用の資料作りを実施

### ① 安定的な運営資金の獲得

→定期的に定額を寄付してくださる支援者の拡大



### ② 安定的なボランティアスタッフの獲得

→学生ボランティア講師のみならず、食事づくりや片付け・清掃のボランティアも必要



### ③ より多くの学習支援の場の創出

→勉強への必要性和意欲を感じ、より学習支援を必要とする子どものために



### ④ より多くの食事提供の場の創出

→家庭が貧困状態から抜け出せないが、成長期で食事を必要としている子どものために



より多くの子どもたちの助けになれるよう、今後も工夫をして参ります